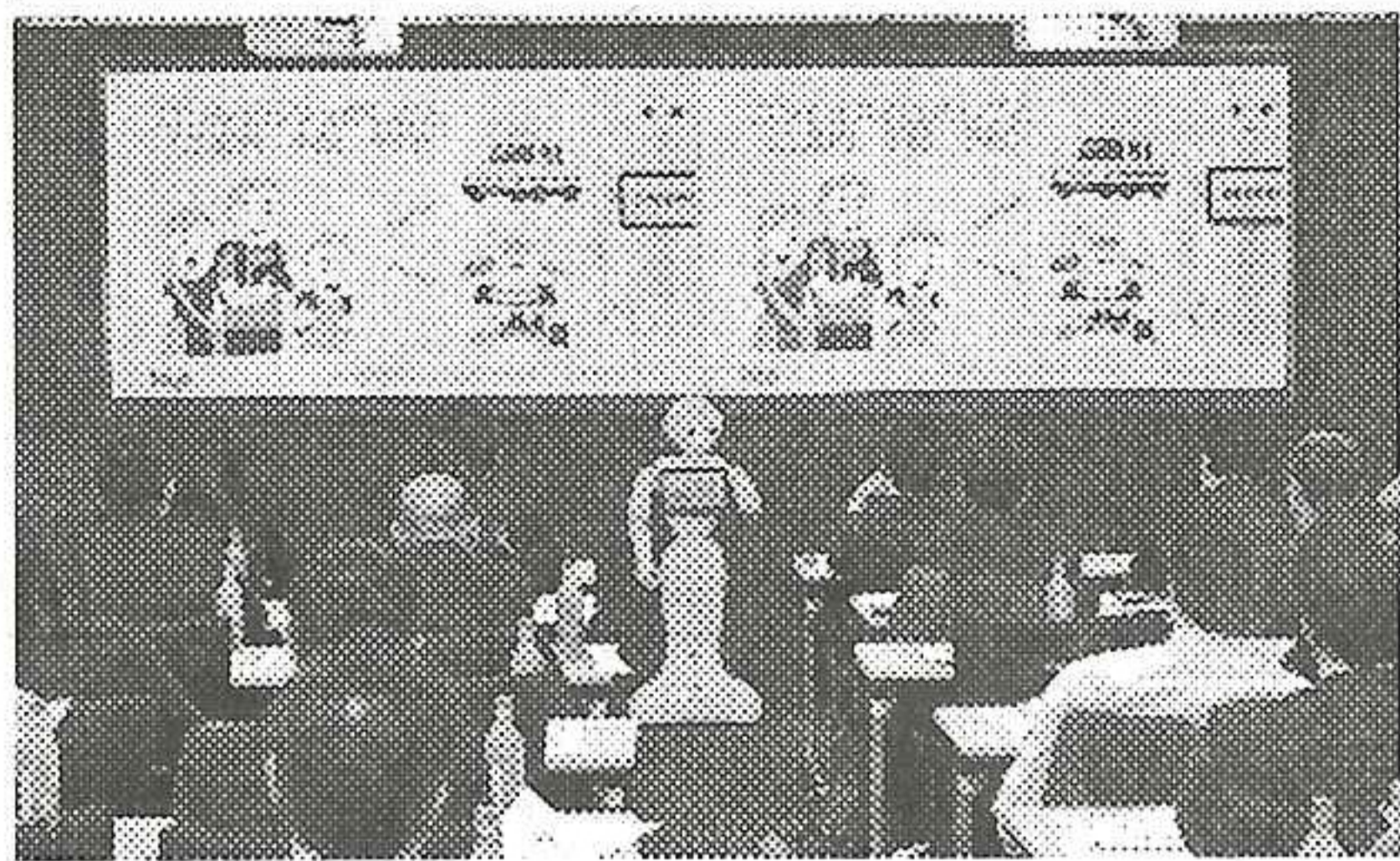


宿泊業向けシステムのタツプ

セミナーでロボ実演

宿泊施設専門の情報システム会社、タツプ（東



京都江東区、清水吉輝社長）は3月24日、参加費無料の「ホテル・旅館ITセミナー」を東京都中央区の日本IBM本社事業所セミナールームで開いた。

清水社長は「ホテル情報システムとロボットの未来」と題して講演。ソフトバンク・ロボティクスのPepper（ペッパー）写真とホテル

情報システムをつなげ、ペッパーがフロントやコンシェルジュの業務をこなす様子を実演、披露した。

また、ゲスト講師に、ホテル・旅館の不動産鑑定評価などを行っている日本ホテルアプレイザルの北村剛史取締役を招き、講演「取り巻くファシリティ調査と来たるホテル旅館品質認証制度の行方」を行った。

北村氏は世界の観光市場動向と日本のインバウンド市場について「国際観光旅行者数は世界人口の約15%で推移している。現在の世界人口は約73億人で、その80%は同一圏域で移動する傾向が

あり、特に日本は経済成長も著しいアジアという巨大市場を背後に有している」と指摘。その上で「訪日外国人宿泊客が増え続ける中で、日本にも宿泊施設を共通の尺度で測る仕組みが求められるようになってくるのではないか」と述べ、ホテル旅館の品質認証制度を確立する必要性について問いかけた。

また「海外の品質認証ではハードが重視されるが、日本では事情が異なる。日本的『おもてなし』を重視し、ハード、サービス、スタッフ人的接遇力の3要素について調査項目を細かく設定し、評価・認証基準を整備する手法もある」と提案した。